

WF1型 洗濯機用コンセント 取扱説明書

1.安全上のご注意

施工前に、この『安全上のご注意』をよくお読みのうえ、正しく施工して下さい。

- ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守って下さい。
- 施工完了後、正常に作動することを確認して下さい。
- お客様に、使用上の注意をよく説明した後、必ずこの取扱説明書を保管いただくように依頼して下さい。

●お守りいただく内容を次の絵表示で区分し、説明しています。

- 強制** この記号は、必ず実行していただく『強制』内容です。
- 禁止** この記号は、してはいけない『禁止』内容です。
- 注意喚起** この記号は、気を付けていただきたい『注意喚起』内容です。

●工事店様へ

必ず適用樹脂管を使用して下さい。
適用樹脂管は以下の通りです。

- 架橋ポリエチレン管 (JIS K 6769 PN15 M種 XM) ※E種電気融着式は不可
- 水道用架橋ポリエチレン管 (JIS K 6787 M種 XM) ※E種電気融着式は不可
- ポリブテン管 (JIS K 6778 J種)
- カポリEFパイプ<ブルー> (日本水道協会認証登録品)

10A用は10Aの樹脂管、13A用は13Aの樹脂管を必ず使用して下さい。
上記適用樹脂管以外は、漏水の原因となります。

強制 樹脂管はパイプカッターを用いて、必ず切断面が管軸に直角になるように切断して下さい。
2mm以上の斜め切断やのこ歯、カッターナイフでの切断は不可です。
切断後樹脂管の切屑・ささくれ等がある場合は除去して下さい。

樹脂管挿入部の表面にキズや汚れがないか必ず確認して下さい。キズや汚れがある場合は、漏水の原因となります。樹脂管を切断し直して下さい。

凍結が予想される場所を使用する場合は、必ず凍結防止対策(保温処理や水抜きシステムの構築)を施して下さい。
凍結により、部品が破損して漏水するおそれがあります。

禁止 被覆材の切除には、市販のカッターナイフなど樹脂管にキズが付くおそれのある工具は使用してはいけません。
専用被覆カッター(OSC-058)を使用して下さい。樹脂管のキズは漏水の原因となります。

解氷機(凍結した水道管などに電流を流して解凍する装置)を使用する場合、本製品に通電してはいけません。
本製品が発熱し、破損して漏水するおそれがあります。

2.本製品の仕様と使用条件

| | | |
|--------|-------------------------|-----------------------------------|
| 使用圧力範囲 | 0.05MPa~0.75MPa | |
| 使用温度範囲 | 0°C~40°C | |
| 使用流体 | 冷温水(上水道水) | |
| 使用環境温度 | 一般地用(逆止弁付) | 0°C~40°C |
| | 寒冷地用(逆止弁無) | -20°C~40°C (ただし、0°C以下は水を抜いた状態) |
| 用途 | 洗濯機用(屋内用) ※飲用ではありません | |

●給水圧力が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁で適正圧力(0.2MPa~0.4MPa程度)に減圧して下さい。

3.施工の前に

●適用管サイズの組合せは表①の通りです。樹脂管及びサヤ管の組合せが正しいことを確認してから施工して下さい。
(サヤ管サイズによりボックスが異なります。)

表①

| 適用管サイズ | 樹脂管 | サヤ管 |
|--------|-----|-----|
| 10A | 22 | 22 |
| 13A | 22 | 25 |

●本製品は壁厚9.5mm、12.5mmのボード(壁)に対応しています。
壁厚を確認してから施工して下さい。
それ以外のボード(壁)には施工できません。

表②

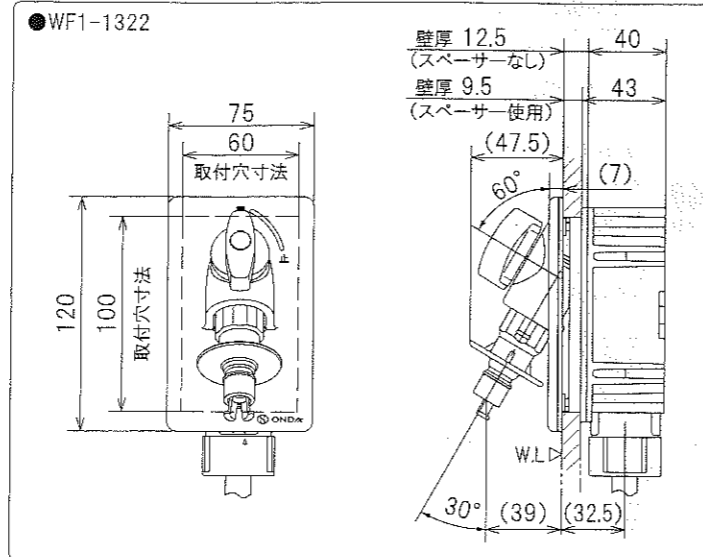
| 壁厚 | 壁内空間 |
|--------|--------|
| 9.5mm | 43mm以上 |
| 12.5mm | 40mm以上 |

●壁内空間は表②の通り確保して下さい。
壁内空間が表②未満の場合は施工できません。
※基本的に上記の壁内空間未満では使用できませんが、調整固定カバー(別売品)を使用の場合、壁厚9.5mm・壁内空間40mmに対応できます。

●取付位置は、洗濯機の機種や設置環境を確認のうえ、決定して下さい。

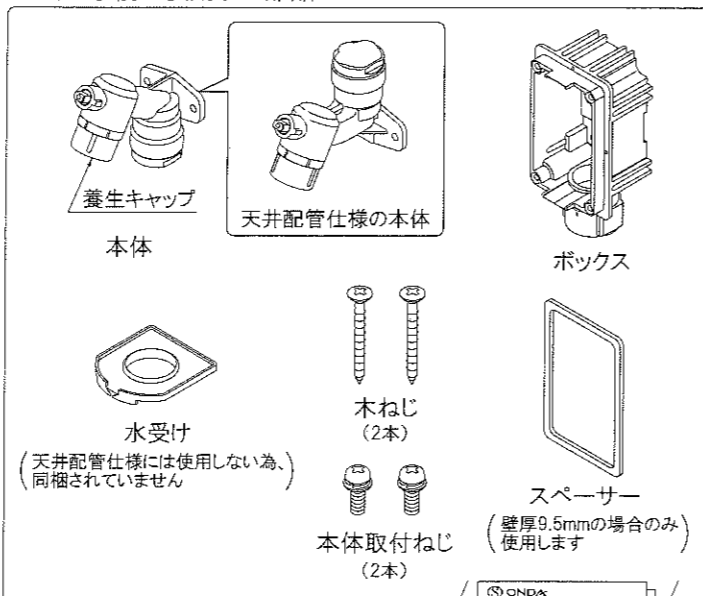
4.完成図

●品番によって、図と現品の形状が異なることがあります。

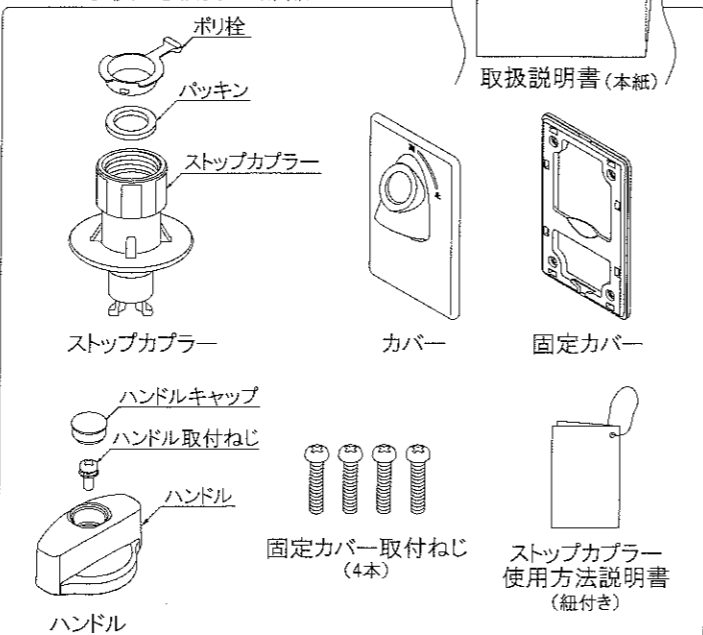


5.部品の確認

●壁工事前に使用する部品



●壁工事後に使用する部品

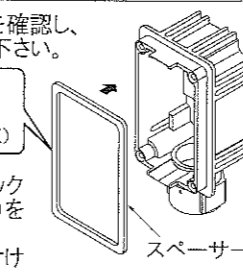


6.施工手順

1.ボックスの取付け

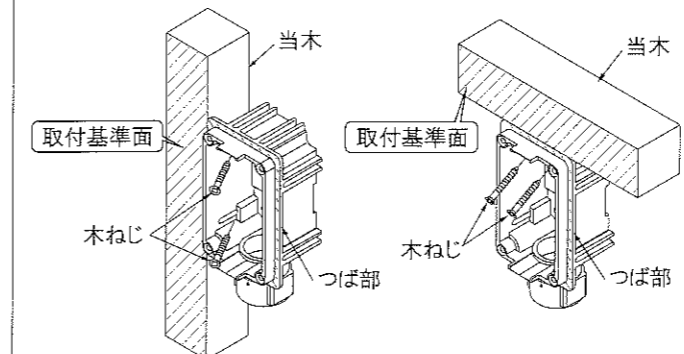
①壁厚が9.5mmまたは12.5mmであることを確認し、9.5mmの場合はスペーサーを取付けて下さい。

強制 壁厚が9.5mmの場合は、必ずスペーサーを取付けて下さい。
(調整固定カバー(別売品)使用時を除く)



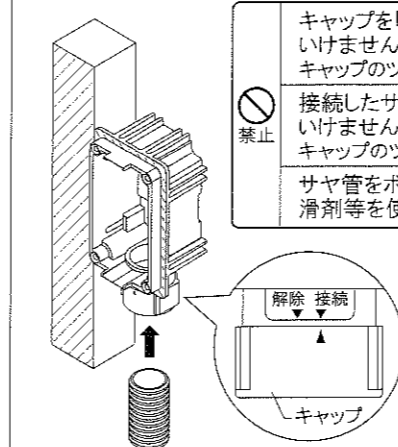
②取付高さを考慮して当木などを設け、ボックスの側面(2箇所)または、上面(2箇所)を木ねじで取付けて下さい。
ただし、天井配管は側面(2箇所)で取付けて下さい。

注意 取付基準面とボックスのつば部が面一となるように注意して取付けて下さい。
※スペーサーを取付けた場合は、取付基準面とスペーサー表面が面一となるように注意して取付けて下さい。



③サヤ管とボックスの接続は、サヤ管を差込むだけのワンタッチ接続です。

禁止 キャップを「解除」の位置で放置してはいけません。
キャップのツメが広がり、接続できなくなります。
接続したサヤ管を無理に引き抜いてはいけません。
キャップのツメが破損するおそれがあります。
サヤ管をボックスの差込口に差込む際、滑剤等を使用してはいけません。



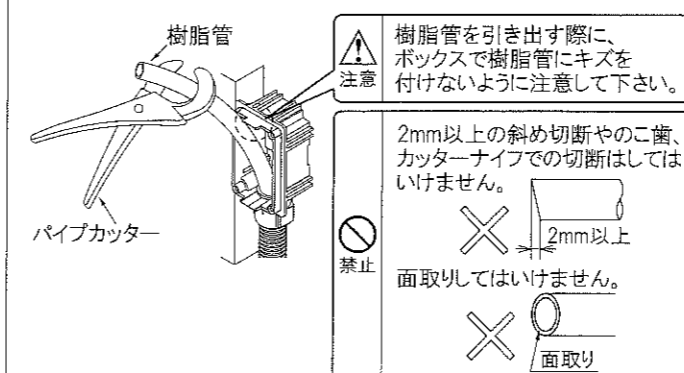
強制 サヤ管サイズを必ず確認して下さい。

④取外しは、水栓ボックスのキャップを解除位置まで回転させてから、サヤ管を引き抜いて下さい。

2.本体の取付け

強制 ボックスと本体の取付けは、必ず給水元の接続より先に行ってください。本体がボックスに収められない場合があります。

①パイプカッターを用いて樹脂管を管軸に対して直角に切断して下さい。

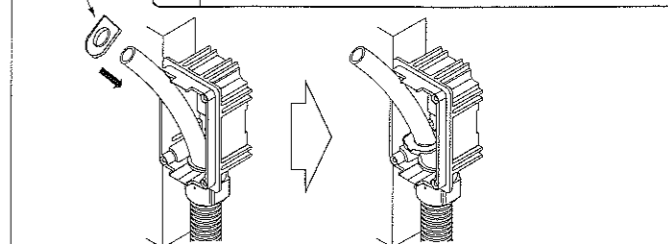


注意 樹脂管を引き出す際に、ボックスで樹脂管にキズを付けないように注意して下さい。

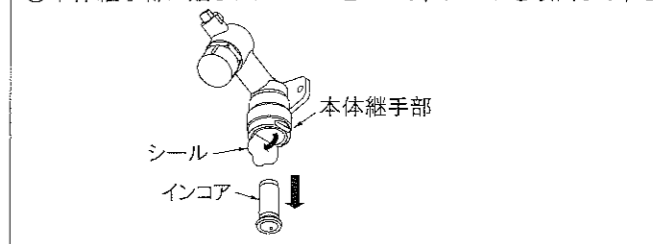
禁止 2mm以上の斜め切断やのこ歯、カッターナイフでの切断はしてはいけません。
面取りしてはいけません。

強制 切断後樹脂管の切屑・ささくれ等がある場合は必ず除去して下さい。
樹脂管挿入部の表面にキズや汚れがないか必ず確認して下さい。
キズや汚れがある場合は、樹脂管を切断し直して下さい。

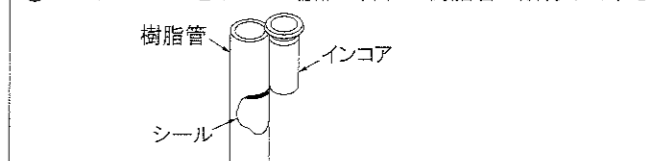
②水受けを樹脂管に差込んで下さい。
(天井配管には水受けは使用しません)



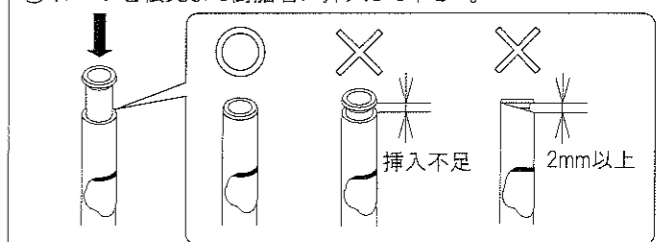
③本体継手部に貼られたシールをはがし、インコアを取出して下さい。



④はがしたシールをインコア端部に合わせ樹脂管に貼付けて下さい。

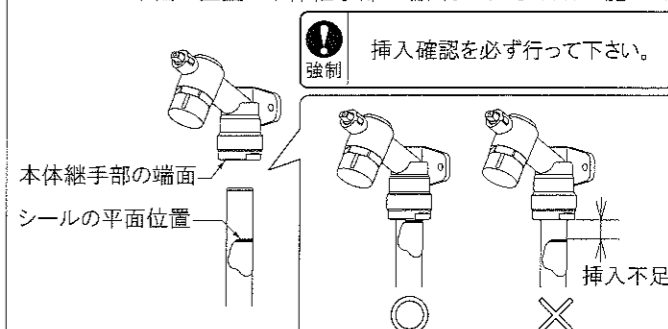


⑤インコアを根元まで樹脂管に挿入して下さい。



強制 インコアと切断端面が2mm以上ある場合は、再度樹脂管を必ず直角に切断し直して下さい。

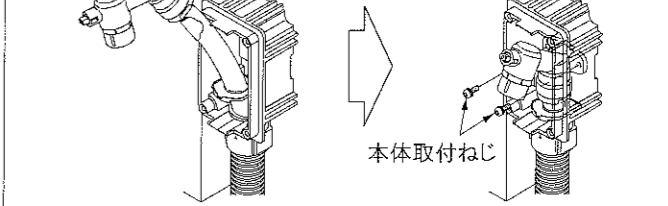
⑥樹脂管を本体継手部に挿入して下さい。
シールの平面の位置が本体継手部の端面まで入ると正しい施工です。



⑦シールの位置で挿入深さを確認した後、樹脂管を引っ張り抜けないことを確認して下さい。

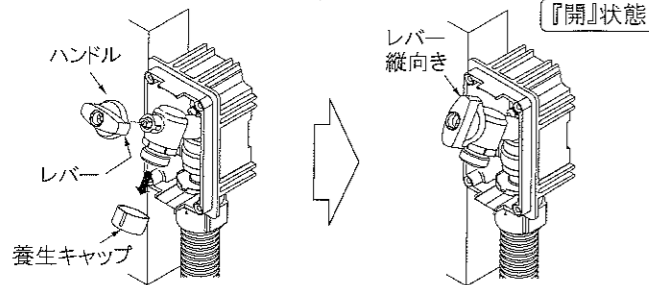
⑧本体継手部を少し回転させ、樹脂管となじませて下さい。

⑨本体と水受けをボックスに収めて、本体取付ねじで固定して下さい。



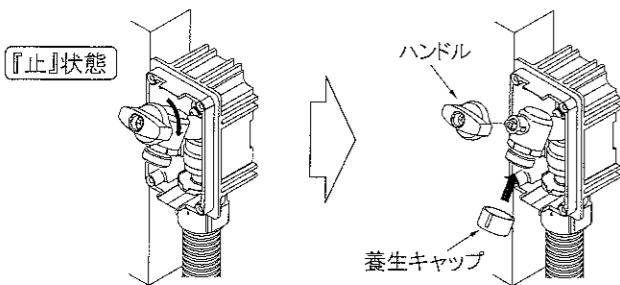
3. 耐圧検査

- ① ハンドルのレバーを横向きにしてハンドルを取付けて下さい。
- ② 養生キャップを取外し、ハンドルを反時計回りに回して、給水管にたまったエアを抜いて下さい。



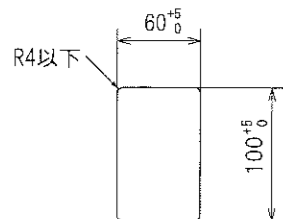
注意 ハンドルのレバーが縦向きのときに『開』の状態です。バルブは『止』の状態で工場出荷されていますので注意して下さい。

- ③ ハンドルを時計回りに止まるまで(90°)回して下さい。この状態で耐圧検査を実施して下さい。
- ④ 耐圧検査後、ハンドルを取外し、養生キャップを取付けて下さい。



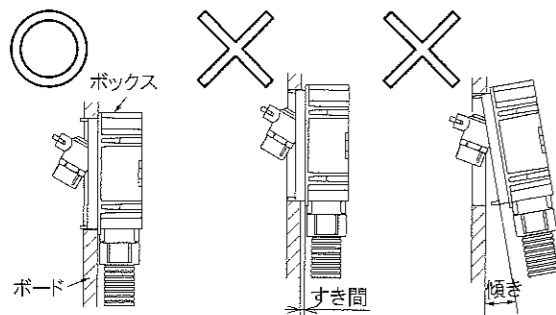
4. ボード(壁)施工時の壁開口

下図のように壁に穴をあけ、壁をはりつけて下さい。

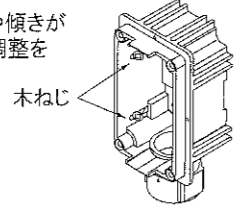


ボックスと壁裏面との間にすき間や傾きのないことを必ず確認して下さい。

すき間や傾きがあると、カバーとハンドル、ストップカブラーが干渉したり、固定カバーが取付けられなくなるおそれがあります。また、漏水の発見が遅れるおそれがあります。

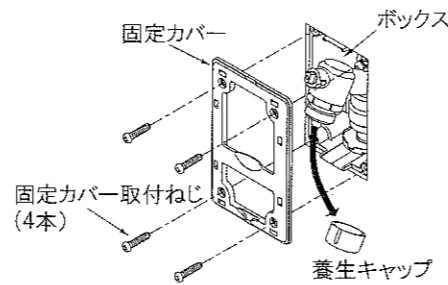


ボックスと壁裏面との間にすき間や傾きがある場合は、木ねじをゆるめて微調整をして下さい。



5. カバーの取付け

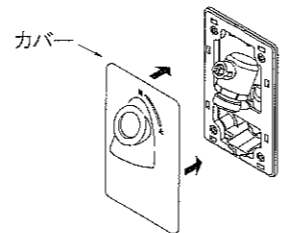
- ① 養生キャップを取外し、固定カバーを固定カバー取付ねじ(4本)でボックスに取付けて下さい。固定カバーとボックスでボード(壁)を挟み付けた状態になります。



注意 固定カバー取付ねじを締めすぎないように注意して下さい。固定カバーが変形しカバーが正常に取付けられなくなるおそれがあります。

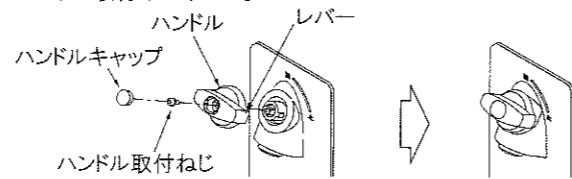
禁止 電動ドライバーを使用してはいけません。

- ② カバーを固定カバーに圧入して下さい。



6. ハンドルの取付け

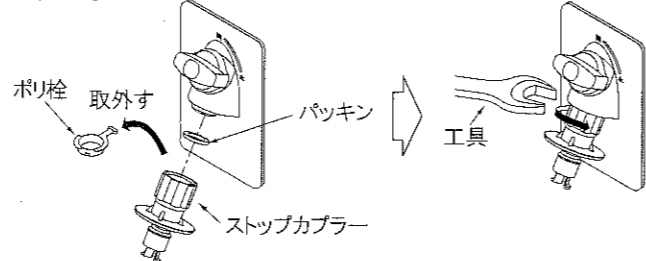
ハンドルを差込み、ハンドル取付ねじをねじ込み、ハンドルキャップを圧入して下さい。ハンドルのレバーがカバー表示の『開』と『止』の間に取付けて下さい。



禁止 電動ドライバーを使用してはいけません。

7. ストップカブラーの取付け

- ① ポリ栓を取外し、ストップカブラーを本体に取付けて下さい。ストップカブラーにパッキンがあることを確認し、工具で回し固定して下さい。



注意 ストップカブラーの上記網掛け部は給水ホースとのシール部です。キズが付かないように注意して下さい。

カバーにキズが付かないように注意して下さい。パッキンを紛失しないように注意して下さい。

強制 ストップカブラーはガタつきのないように必ずしっかりと締付けて下さい。(締付トルクは1N・m~2N・mが目安です。)

- ② 施工後、ハンドルを『止』の位置にして緊急止水弁を押し、圧力を抜いて下さい。



7. 使用上の注意

● 使用される方へ

禁止 製品に強い力や衝撃を与えてはいけません。破損してケガをしたり、漏水や故障の原因となります。

修理技術者以外の方は分解したり、修理してはいけません。故障や漏水の原因となります。

ハンドルは必ずゆっくり操作して下さい。ハンドルを急に閉めると『ドン』という音がして配管に衝撃が加わり、水漏れの原因になるおそれがあります。

通水するときは必ず全開にして下さい。流量調整をすると止水できなくなるおそれがあります。

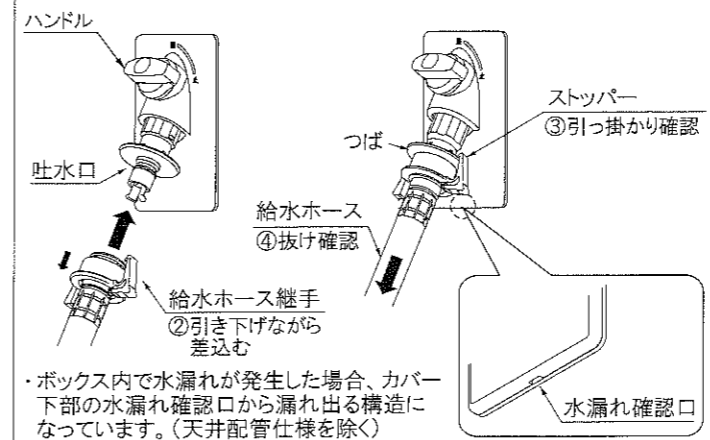
強制 洗濯機を使用しないときは必ずハンドルを『止』の位置にして下さい。給水ホースに圧力がかったまま放置すると、給水ホースが抜けるおそれがあります。

寒冷地用で凍結が予想される場合は、必ず水抜きを行い凍結予防を確実に行って下さい。部品が破損して漏水するおそれがあります。

給水ホース継手の接続方法

洗濯機に接続する給水ホース継手は日本電機工業規格(JEM1206)適合品を使用して下さい。
※二層式洗濯機には別途、適合するアタッチメント(市販品)が必要です。
給水ホース継手を接続する際は、必ずハンドルを『止』の位置にして、緊急止水弁を押し、吐水口に内圧がかかっていないことを確認してから接続して下さい。

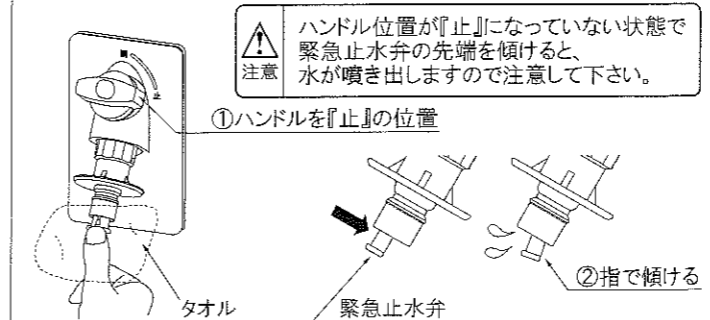
- ① 給水ホース継手に接続されているビス止め式の接続金具を取外して下さい。
- ② 給水ホース継手を引き下げながら確実にストップカブラーへ差込んで下さい。
- ③ 給水ホース継手のストッパーをストップカブラーのつばに引っ掛けて下さい。
- ④ 給水ホース継手を接続したら、ホースを引っ張って抜けないことを確認して下さい。
- ⑤ ハンドルをゆっくり開いて、漏水が無いことを確認して下さい。



給水ホース継手が接続できない場合

通水後、給水ホースを取外した時などに、ストップカブラー内の圧力により緊急止水弁が作動し、再接続しにくい場合があります。この場合は、ストップカブラー内の圧力逃しを下記の手順で行って下さい。

- ① ハンドルが必ず『止』の位置にあることを確認して下さい。
- ② 緊急止水弁の先端を指で傾け圧力を逃します。
※圧力を逃した際に、配管内の水が出てきますので、タオルなどで押さえて、作業して下さい。
※緊急止水弁の向きは下図と異なる場合があります。
- ③ 圧力逃し後、緊急止水弁を指で押し、ストップカブラーの中へ入り込むことを確認し、給水ホース継手を接続して下さい。



注意 ハンドル位置が『止』になっていない状態で緊急止水弁の先端を傾けると、水が噴き出しますので注意して下さい。

寒冷地用の水抜き方法

- ① 配管部の元栓を閉め、水抜き栓を開けて下さい。
- ② ハンドルを『開』の位置にして下さい。
- ③ 給水ホース継手を外して下さい。(給水ホース内の残水はバケツ等で受けて下さい。)
- ④ 緊急止水弁の先端をタオルなどで押さえながら、押し込んで下さい。
- ⑤ 緊急止水弁から水が出たあと、ストップカブラーから空気を吸い込むことで配管内の水を抜きますので、しばらく緊急止水弁を押し込んだままにして下さい。(30秒程度)
- ⑥ 水抜き完了後は、給水ホース継手を取付け、必ずハンドルを『止』にして下さい。

8. 日ごろのお手入れ

十分な機能を発揮させるため、また、美しく衛生的にご使用いただくために日ごろのお手入れをお願いいたします。

- 軽い汚れの場合・・・水またはぬるま湯に浸した布をよく絞って汚れをふき取って下さい。
- ひどい汚れの場合・・・適量に薄めた中性洗剤を含ませた布で汚れをふき取ったあと、水拭きし、から拭きして下さい。

～ お願い ～

製品をキズつけるものは使用しないで下さい。

酸性洗剤、アルカリ性洗剤、塩素系漂白剤(製品の表面が変色します。)

シンナー、ベンゼンなどの溶剤(ゴムや樹脂部品が破損するおそれがあります。)

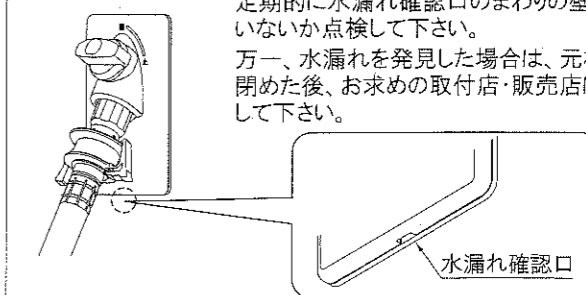
クレンザー、磨き粉など、粗い粒子を含んだ洗剤ナイロンたわし、たわし、ブラシなど(製品の表面にキズがつきます。)

9. 定期的な点検のお願い

安全・快適にご使用いただくために、定期的な点検が必要です。

定期的な点検

定期的な水漏れ確認口のまわりの壁が濡れていないか点検して下さい。万一、水漏れを発見した場合は、元栓を閉めた後、お求めの取付店・販売店に連絡して下さい。



修理・取扱のご相談は
まずお求めの取付店・販売店へ

取付店・販売店 〒

電話

株式会社 オンダ製作所

URL <http://www.onda.co.jp/>
● 営業部 〒501-3283
岐阜県関市広見851番地の3
TEL (0575)24-8585 (代)

商品の技術的なお問合せ専用回線です。
(ご注文は営業窓口へお願いいたします。)
お客様相談窓口 ☎ 0120-12-8585
受付時間 9:00~12:00/13:00~17:00
(土・日・祝日・夏期休暇・年末年始を除く)